

日本ふるさと名産食品展香港商談会の開催報告

交流支援部経済交流課

1 開催目的

2012 年 2 月 8 日（水）香港日本人倶楽部において、香港貿易発展局の協力を得て、商談会を開催した。これは、2012 年 2 月 1 日（水）から 7 日（火）まで香港そごうで開催した「日本ふるさと名産食品展」への出展企業の香港、中国市場開拓をさらに支援するために企画したものである。

2 商談会

(1) 参加企業

商談会では、香港貿易発展局の有料のフードビジネス用ビジネス・マッチング・サービスを利用し、参加企業のニーズに合った香港バイヤーを招聘した。日本側参加企業はマッチングサービスの費用は企業負担としたため、3社であったが（緊急に帰国せざるを得ずキャンセルした企業があったため最終的には2社）香港バイヤーは6社が参加し、面談機会は延べ9回であった。事前に双方の企業情報を伝えていたため、スムーズな商談が実現できた。



(2) 会場・通訳手配

商談会の会場は、香港そごうから徒歩3分ほどの「香港日本人倶楽部」とした。香港そごうから近く便利なロケーションであったため、出展企業からも好評であった。通訳は、香港貿易発展局から紹介を受けた通訳手配会社に手配を依頼した。

(3) 商談会運営

香港貿易発展局の職員2名、クリア職員3名が運営にあたった。香港貿易発展局がアレンジした商談スケジュールに従って、香港バイヤーが香港日本人倶楽部の出展企業のブースに来訪するという形式であった。香港貿易発展局の職員は主に香港企業の誘導、案内等を行い、クリアの職員は出展企業の対応を行った。

3 商談会から取引へ

今回の商談会に出展した企業からは、数件の商談が成立したとの報告を得ている。

香港貿易発展局のフードミッション用ビジネス・マッチング・サービスは、出展企業の要望にあわせて香港企業を探すサービスである。出展企業の情報は事前に商談相手となる香港企業に通知されているため、香港企業は商談会に来る際、出展企業のある特定の商品に興味を持ってくるケースも多い。このため、商談会では実際に試食をしてもらった上で、具体的な話につながることも多いとのことであった。

なお、食品展の開催報告は現在とりまとめ中であるが、香港そごうにおいて開催された日本関係の物産展の中では最高水準の売上を達成することができた。これは、出展商品の高い品質、全国からの商品が揃ったことによる充実した商品構成、出展者各社の営業努力、香港そごうの集客力によりものと思われる。因みに、食品展のみに参加し、商談会には不参加の企業からも複数の商談が成立したとの報告も得ている。

4 自治体におけるビジネスマッチング活用の可能性

商談会の開催を決定したのが、出展企業の選定後であったため、開催案内が遅くなり、結果的に参加企業が少なかったことは大きな反省点である。香港市場における日本食品の需用の大きさや香港貿易発展局のビジネスマッチングの有効性からみて、次回開催する場合は、募集段階から商談会をセットで案内することが必要であると思われる。

今後、香港で地元企業の販路開拓の支援を予定されている自治体へは、香港貿易発展局のビジネス・マッチング・サービスの活用をお奨めしたい。また、自治体がビジネスマッチングの費用を助成するなどすれば、より多くの企業が参加し、より大きな成果が得られるものと考えられる。

《参 考》

* 香港貿易発展局 (<http://www.hktdc.com/info/ms/jp/Japanese.htm>)

香港貿易発展局は、1966年に香港の対外貿易・経済関係促進を目的として、香港政府によって設立された特殊法人である。日本のJETROに相当する業務を世界各国で行っており、現在、東京・大阪と中国本土11都市を含む世界40以上の主要経済都市に事務所を有している。1971年に東京、1981年に大阪に事務所を開設、日本企業と香港企業との貿易促進や香港を経由した中国、アジアのビジネスの拡大に努めている。

* 香港日本人倶楽部 (<http://www.hkjapaneseclub.org/>)

香港日本人倶楽部は、1955年に設立された会員制の非営利倶楽部で2012年度における法人会員数は333社、会員総数は2,122名となっている(うち、地元香港の中国人ほか外国人計471名が会友として登録されている。2012年1月末現在) レストラン、会議室、図書室があり、会議室は商談会会場としての利用もできる(ただし会員の紹介が必要)。

(荒田経済交流課長 長崎県派遣)